

SCI Agritech @ JICA筑波 NEWSLETTER

Vol.13

2023年10月号



2023-2025年度課題別研修

「市場志向による付加価値及び生産安定・増加のための 野菜の施設栽培技術」に係る研修事業 がスタート！

2023年10月より、「市場志向による付加価値及び生産安定・増加のための野菜の施設栽培技術」の課題別研修が本格スタート。10月16日、JICA筑波にて、6カ国からの研修員を迎えて、研修開始のオリエンテーションが開催されました。

この研修は、東南アジア地域などの開発途上国での食品ニーズの多様化と市場ニーズに応え、小規模農家の所得向上とフードバリューチェーン(FVC)の構築を目的とするものです(10月16日~12月15日)。



講義は、FVC、市場分析、マーケティング、施設栽培技術全般、地方自治体施策¹⁾など、FVCの上流から下流までの講義プログラムを企画しています。さらに、農協²⁾、種苗会社など³⁾の民間からの講義もあり、多角的な視点から施設栽培と市場ニーズについて学びます。

そして、圃場実習は、チンゲンサイを用いて露地・パイプハウス・ガラス室における栽培比較実習、及びミニトマト栽培時の高機能制御温室オペレーションなどを通じて、施設栽培技術のメリット・デメリットを実践的に学びます。

また、先進的な経営農家⁴⁾や家族農家、スマート農業を導入している農家⁵⁾、市場⁶⁾などの訪問や講義を通じ、現地での取り組みや課題を直接学びます。これらを通じて、実際の現場でどのように施設栽培が行われ、どのように市場ニーズに込えているのかを理解を深めます。

講義、実習、視察を通じて、研修員の知識と視野が広がり、自国へのアクションプランづくりに向けて新しいアイデアや取り組みが生まれることを期待するものです。

研修員情報

来日した研修員(6名)と関心ごと

Dunielさん	キューバ	施設栽培の生産技術向上
Samisさん	ヨルダン	VCや品質管理技術
Teeさん	ラオス	小規模農家の収量向上
Tuyaさん	モンゴル	小規模農家支援と民間連携
Alexisさん	フィリピン	環境配慮と農家収益向上
Sampsonさん	ガーナ	小規模農家の施設栽培普及



2ヶ月間のFVC施設栽培技術に関する研修は、課題別研修テーマとして新しいチャレンジとなります。各分野に長けた講師からのFVCや施設栽培に関する講義、関東近郊や東海地方の農家や民間企業への視察は、研修員の視野を広げ、私たち自身にとっても新たな気づきや提案を生み出す機会になると考えています。

課題別研修事業の機会を通じて、私たち一人一人がこの経験を大切にして、チーム全体としてもこの学びを活かしていくように取り組んでいきます。なお、講義が約30コマ、実習が約40コマ、視察が約20コマで構成され、各コマでは、通常は接する機会の少ない講師陣、実習内容、視察先が組まれています。もし、ご関心がございましたら、いつでもチームメンバにお声がけ下さい。

1) 田原市農林水産部、愛知県林水産事業所、東海農政局など
2) JA愛知みなみ、JA茨城旭村など

3) 武蔵野種苗園、サンホープなど
4) ふしちゃんファーム、drop farm、Teddyなど

5) JA西三河きゅうり部会など
6) 土浦地方卸売市場、豊洲卸売市場など (敬称略)

圃場準備風景



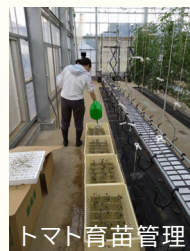
太陽熱土壌消毒



露地播種



温室播種



トマト育苗管理



高機能制御温室

圃場管理の作業支援 (株)川上農場様

